

これでできる!

GIGAスクール  
はじめて日記 4

# 個別最適な学び と 協働的な学び

堀田龍也 [監修] 佐藤和紀・泰山 裕・大久保紀一朗 [編著]



## CONTENTS

はじめに —— 「令和の日本型学校教育」の確実な理解を ..... 2

### 理論編

◆ 個別最適な学びと協働的な学びのために——考え方と取り組み方 ..... 8

◆ 個別最適な学びと協働的な学びの実現のための教師の学力観と学習過程 ..... 15

◆ 学習者主体の授業を支える情報活用能力 ..... 21

## 1 個別最適な学びと協働的な学びを充実させるための [ 教師の学習観 ]

01 「自分らしい」学びをどう支えるか ..... 28

02 自分が何を為したいかを大切に仕事を進める ..... 32

03 学習観の更新につながる教師の学習経験 ..... 36

COLUMN 当たり前を見直すことから始まる教師の学習観の更新 ..... 40

# 2

個別最適な学びと協働的な学びを進めるための

## [ 支援や環境 ]

### 学習の手引き

- 01 (小学校低学年) 学習の手引きを示して、自分のペースで学んでいく ..... 44
- 02 (小学校6年生) 児童自ら学習を進めていくための環境づくり ..... 46
- 03 (中学校2年生) 生徒が自ら学びを進められる環境をつくる ..... 48
- 04 (特別支援教育) 学習の見通しをもたせ、子どもの主体性を引き出す ..... 50
- 05 (小学校4年生) ゴールと学習過程の提示で主体的な学習者へ ..... 52

### 学習の計画

- 06 (小学校4年生) 学習過程の可視化と保存 ..... 54

### 学びの参照と共有

- 07 (小学校中学年以上) Google Chat™ を学びのハブに ..... 56
- 08 (小学校6年生) Google Chat を活用し、情報共有を行う ..... 58

### モニタリング

- 09 (小学校5年生) 進捗状況を共有し、協働的な学びを促す ..... 60
- 10 (小学校5年生) 友だちの学習内容・状況を一覧で見る ..... 62
- 11 (小学校高学年) クラウドを活用して多様な学びを見取る ..... 64
- 12 (小学校4～6年生) 教師が1人ひとりの学びを瞬時に把握し、支援する ..... 66

### 協働の促し

- 13 (小学校中学年以上) Google ドライブ™ で学習者の自発的な協働を促す ..... 68
- 14 (小学校3～6年生) 考えの立場を可視化して協働的な学びを支援 ..... 70
- 15 (中学校3年生) 「個別最適な学び」への挑戦と克服 ..... 72

## 任せる前に鍛える

- 16 (小学校5年生) 「情報を収集する力」を鍛える ..... 74
- 17 (小学校4～6年生) スキル定着に向けて活用を繰り返す ..... 76

## 学習シート

- 18 (小学校3年生) 個の目標・活動・振り返りが一体化した共有シート ..... 78
- 19 (小学校4年生) 単元を通して学習を委ねるための計画シート ..... 80
- 20 (小学校4年生) 内容と方法で振り返り、学び方を改善する ..... 82
- COLUMN 今、求められる教師の学習観のアップデート ..... 84

# 3

個別最適な学びと協働的な学びを実現する

## [ 授業デザイン ]

### 小学校 1時間の授業で

- 01 (小学校6年生・国語) 探究的な学習×個別最適な学び ..... 88
- 02 (小学校3年生・算数) 全体で習得したスキルをそれぞれが活用・探究する算数 ..... 92

### 小学校 単元を通じて

- 03 (小学校6年生・社会) 解決したい課題を設定し探究的に学ぶ ..... 96
- 04 (小学校6年生・国語) 自分のペースで課題解決 ..... 100

### 中学校 1時間の授業で

- 05 (中学校3年生・理科) 実験のタイミングも生徒が決める自由進度の理科学習 ..... 104

### 中学校 単元を通じて

- 06 (中学校3年生・保健体育) 「自分で獲得する」が成長の原動力 ..... 108
- 07 (中学校2年生・社会) 単元内自由進度学習とICT ..... 112
- COLUMN 新しい授業観に関する用語 ..... 116



# 4

個別最適な学びと協働的な学びの実践を支える

## [ 教師への支援 ]

01	保護者への説明・体験	120
02	県が示すビジョンを参考に、学校主体で授業を改善	122
03	クラウドの活用で、ひと・もの・ことを「いつも・いつでも」つなぐ	124
04	授業と同じ流れの研修で「学習観」を変える	126
05	教務主任が担う3つの役割	128
06	研修∞授業! できること全部クラウドで!	130
Q&A	みなさんの疑問にお答えします	132

本書で紹介される活動実践は、Google Workspace for Education を中心としたツール（Google Classroom、Google Chat、Google Jamboard™、Google スプレッドシート™、Google スライド™、Google ドキュメント™、Google フォーム、Google ドライブおよび YouTube™）を駆使して行われています。

# 1

個別最適な学びと  
協働的な学びを充実させるための

## [ 教師の学習観 ]

---

- ◎「自分らしい」学びをどう支えるか
- ◎自分が何を為したいかを大切に仕事を進める
- ◎学習観の更新につながる教師の学習経験

## 01

「自分らしい」学びを  
どう支えるか

個別最適な学び・協働的な学びを一体的に充実させるために、「個別って何?」「協働ってどうやるの?」のような、一定の成果があるものとして捉えることは危険である。「その子らしさ」「その子らしい学び」という視点から子どもたちの学び方を再検討する必要がある。



久川慶貴



藤山台小31601

5月6日（最終編集: 18:00）

5月6日（木）5時間目「国民権」

## 【課題】

くらしの中に潜んでいる「国民権」について説明しよう

## 【ゴール】

B：くらしの中の国民権について1つ説明することができる

A：2つ以上説明することができる

S：身近な例や経験と関連づけて説明することができる

## 【流れ】

## 1人ひとりの「らしさ」を引き出す学びへ

小学校6年生国語科、『鳥獣戯画』を読む」の学習において、筆者である高畑勲について学習した児童の振り返りである。

「今日は、チャットに送られた動画を見て高畑勲とはどのような人物なのかを考えました。高畑勲は、前の単元の「やまなし」の作者、宮沢賢治に憧れていたということが分かりました。そして、宮沢賢治作の「セロ弾きのゴーシュ」をアニメ化したのが高畑勲ということが分かりました。そのことから高畑勲は、憧れの宮沢賢治のような名作を作りたかったのではないかと考えました。高畑勲作の作品には、有名な火垂るの墓がありました。私も、「この子のこんなところすていな、自分もやりた

いな」と思い、参考にすることがあります。例えば、計画を立てる時にどう立てようかなやんでいる時、友だちのを参考にすることがあります。そのような感じで高畑勲も宮沢賢治のことに憧れてたくさん作品を作ってきたのかなと思いました。

今回は、高畑勲の思いを意識して要旨を探したいと思います。」

もちろん、本当に高畑勲が宮沢賢治に憧れていたのかという点では厳密に調べられていない可能性は否めない。しかし、『この子のこんなところ……』の部分からは、この子が自分の生活や学習経験と比較しながら自分なりの学びを創り上げていることが想像できる。このように、私はその子にしか言葉にできない学びを実現するために実践を続けてきた。

1人ひとりを大切に、力をつける、いわゆる個別最適な学び、協働的な学びは100年近く前から原型となるものが国内外で実践されてきた。一方で、方法論や準備、環境などの面で普及・継続が難しかったともいえる。1人1台端末とクラウド環境が整備され、情報や活動の共有が容易に行われるようになり、1人ひとりに質の高い活動が見られるようになった。

## 具体的な授業の様子

教室では、何を学ぶのか、どのように学ぶのかを子どもたちが自己決定している。個人で動画を見ながら情報を集める子、グループで話し合いながら情報の整理する子たち、など様々である(図1、2)。子どもたちの学びが複雑化した教室において教師はどのような考え方で指導を行い、クラウドを活用していく必要があるのかを述べる。



図1 個人で情報を集める



図2 グループで話し合う

## 教師は学び方を教える

私の初任期は端末もクラウドもなく、「学習規律」や「教えて・考えさせる」という教師がいかに関与するかのマナーを整えて、教師が端的に教えるかということに注力していた。

学習規律という言葉に対しては様々な議論があるものの、「子どもたちが学びやすくなるための最低限の指導」という視点で捉えることが重要だと考える。例えば、的確な指示や説明で不要な迷いを減らすこと、どのように話し合えば互いに不快な思いをせず、建設的なものになるのか、環境面で言えば、話し合うときの机の配置など学習を進めるためのルールなどを共有しておくことで、学習を円滑にすすめることができる。Google Chat の使い方、Google Chat 上での話し方、他者の Google Jamboard の参照の仕方なども学習におけるマナーだと言える。図3は、修学旅行の振り返りのドキュメントを途中段階でも共有している様子である。こういった学習活動においても、URL のコピーの仕方、貼り付け方、閲覧の権限の設定の仕方など、具体的な方法をいくつも指導する必要がある。

学習のマナーは体験的に、そして繰り返すことで、徐々に身につくものであることを私たちは自覚する必要がある。一回言えばできるよう



図3 学習活動を Google Chat で共有する

# 2

個別最適な学びと  
協働的な学びを進めるための

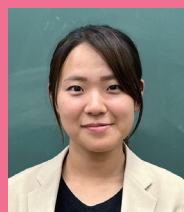
## [ 支援や環境 ]

- ◎学習の手引き……………小学校4事例／中学校1事例
- ◎学習の計画……………小学校1事例
- ◎学びの参照と共有……小学校2事例
- ◎モニタリング……………(学習進度) 小学校2事例／  
(多様な学び) 小学校2事例
- ◎自発的な協働……………小学校2事例
- ◎流れをつくる……………中学校1事例
- ◎任せる前に鍛える……小学校2事例
- ◎学習シート……………小学校3事例

## 学習の手引き

小学校低学年

使用ツール



福井美有

# 学習の手引きを示して、 自分のペースで学んでいく

子どもたちが学習の見通しをもつことができるように Google Classroom に学習の手引きを示した。そこでは、探究的な学習の過程を意識して作成した。さらに、自分で学んでいけるように、学習を深めるための視点やゴールを手引きの中で示すなどの支援をした。

## 自 10月17日（火）ぶどう農家を調べる（④/4）

福井美有・10月17日

10月17日（火）  
わたかすP.14～19

**めあて** 自分できめためあて

### ゴール

- B：資料から事実を書き出すことができる。  
A：資料から事実を書き出し、疑問をもとにさらに調べることができる。  
S：A+自分の考え（よそうもふくむ）をもつことができる。

### 流れ

- ①【課題の設定】めあてのかくにん
- ②【情報の収集】ノートにメモ、教科書などに線→ジャムボードにふせんで書き出し文と資料をむすびつける
- ③【整理・分析】疑問に思ったこと・わかったことをジャムボードに整理する。  
**視点：しゅくみ、工夫・努力、人とのかかわり**
- ④【まとめ・表現】事実から自分が考えたことをまとめる。
- ⑤ふりかえり

### じゅんぴするもの

- ・社会科のチャットをひらいておく
- ・ジャムボード
- ・学びの記るく



## 低学年の特性から

低学年では、一度で教師の指示を聞き取り、行動することが大変難しい。そのため、今までは、指示を短くし、一斉で授業を進めてきた。しかし、学習の手引きを Google Classroom に示すことで、子どもたちは、何度も自分のタイミングで学習の手引きを確認することができる(図1)。学習の手引きが、子どもたちにとって学びの地図になり、安心して学びに向かうことができる。こういった点においても、学習の手引きを示すことは、低学年において、有効である。

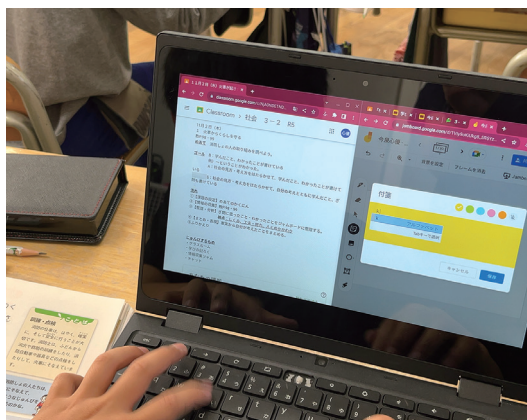


図1

## 見通しをもつことで自分の学びを考える

Google Classroom には、学習の手引きとして探究的な学習の過程を示している。これを予め、子どもたちに示すよさは2つある。

1つ目は、課題解決に向けて見通しをもつことができることである。子どもたちは、課題の解決に向けて、どのように進めたらよいか、という、ゴールまでの道筋を意識して学びを進めていくことができるようになる。このように見通しをもつことで、自分で学びを進めていこうという意識が変わっていき、徐々に教師の手から離れていくようになる。もちろん、教師は必要なタイミングで支援をしていくが、子どもたちの自分で学んでいこうとする気持ちを育てる

ことにつながる。

2つ目は、自分のペースで学びを進めていくことができることである。今までであれば、一斉授業であったため、子どもたちは教師の指示を待たなければならなかった。しかし、学習の手引きを予め示すことで、子どもたちは、学習の手引きを確認しながら、自分のペースで学びを進めていくことができるようになる。どこに自分は時間をかけたいのか、逆にどこの部分はペースをあげることができるのか、ということも自分で選択し、調整することができるようになる。こうすることで、その子らしい学びにつながっていく。

## 学習過程を通じて学び方を振り返る

学習の手引きは、探究的な学習の過程を意識して作成している。これは、課題解決に向けての1つの道筋である。

子どもたちは、その時間の学習のめあてを知り、自分でどこまで頑張るか、学習の目標を設定する。これが課題の設定。そして、情報の収集では、どの情報を取り出し、その情報をどう整理して、何が分かったのか、最後にまとめ・表現で導き出される自分の考えは何かを考えていく。探究的な学習の過程という道筋は設けられているが、その中で自己選択し、自己決定する場合は数多く存在する。これを繰り返していくことで、徐々に自分で学べる子に育っていく。

また、探究的な学習の過程を通して意識的に課題解決を行うことで、自分の学び方も振り返ることができるようになる。これを繰り返していくと、次は何を意識したらよいか、ということを考えるようになる。自分の学び方をよりよいものにしていこうとする意識にもつながっていく。

# 3

個別最適な学びと  
協働的な学びを実現する

## [ 授業デザイン ]

---

◎小学校実践

〈1時間の授業で〉……6年生・国語／3年生・算数

〈単元を通じて〉……6年生・社会／6年生・国語

◎中学校実践

〈1時間の授業で〉……3年生・理科

〈単元を通じて〉……3年生・保健体育／2年生・社会

事例

# 01

実践の単位

## 1時間の授業で

小学校6年生 / 国語

単元・教材名 言葉は時代とともに (教育出版)



辻 瞳

# 探究的な学習 × 個別最適な学び

名前	単元の課題	①学習計画		2時間目			
		課題の設定	情報の収集	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
	自分の考えを書くときにわかったことと考えたことをわけて書く。スライドにまとめるために、相手に伝える。方言集や国語辞典、図鑑辞典、芥川龍之介の作品を頼んで作品のさまざまな意味を知る。自分の考えを書くときに誰かの考えがわかるようになって、言葉が時代とともに変わってきたことについて、あらためて、まとめる。	単元の学習の流れを理解して、学習の見通しをもつ。急がずに、ちゃんとやる。	教科書、スライドなどのクロームを使うやうに、友達と交流	3人の文豪の文章の違いについて考える。特徴的な表現を模倣する。作者の他に有名な作家をクローム(インターネット)で調べ、意識した時代などを調べ、話べてみる。	教科書、インターネット(クローム)友達と一緒にやる	よくできた	よくできた
	自分の考えを書くときにわかったことと考えたことをわけて書くことができる。スライドにまとめるときに、相手に伝えることができる。のめりできるようにする。急がずに今の言葉についてしっかり読みたり意味がわかったりする	学習計画をしっかり立て、流れを理解し学習の見通しを持つ。	教科書をまよ読み、他にも協力して読める。	今日は、友達とクロームなどで交流しながら、3人の文章の違いに気付く。	教科書、クロームブック	よくできた	よくできた
	今と昔の言葉の変化について考え、考えたことをスライドにわかりやすくまとめる。	学習計画を立てて、学習の見通しを持つ。	友達と協力して、教科書で調べて書く。	教科書の作品を音読して、それぞれの違いに気づく。5個以上の覚えたことをスライドに書く。	教科書、クロームブック	よくできた	だいたいできた
	自分の考えを書くときにわかったことと、考えたことをわけて書くことができる	自分のペースで進める。学習計画をたてる	友達と教科書などで調べてやる	友達とクロームブックで3人の文豪について調べ、違いを知る	教科書、友達	よくできた	よくできた
	○ 自分の考えを書くときにわかったことと考えたことをわけて書くことができる。 ○ スライドにまとめるときに、相手に伝えることができる。	単元の学習の流れを理解して、学習の見通しをもつ。	教科書、クロームブック	正岡子規、夏目漱石、芥川龍之介の作品を音読して、それぞれの文章の違いに気づく。	教科書、クロームブック	よくできた	よくできた
	スライドをわかりやすくまとめ、今と昔の言葉の違いについて理解する	今回の単元の課題を確認して、学習の見通しを持つ	教科書・インターネット	3人の作品の違いについて知り、まとめる。	教科書・クローム	よくできた	だいたいできた
	スライドを分かりやすく書いて、友達と交流する	学習の見通しを持って、学習計画を立てる	教科書・友達	3人の文章についてジャムボードに違いを書くことができる	教科書・友達・クローム	よくできた	だいたいできた
	AIに加えて、友達と交流するときにはできるだけわかりやすく考えが深められることができる。スライドにまとめるときに全部映したから書かないで大抵なところをスライドにまとめる	進めやすく自分のペースで後々困らない学習課題を立てる	教科書を読む	3人の文豪を詳しく調べどンドン進む	クロームや友達と交流する	よくできた	よくできた

### 授業のねらい

近代の代表的な文学者の作品にふれて、言語表現を味わおう。

## はじめに

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、探究的な学習の過程を意識した授業づくりに取り組んでいる。探究的な学習の過程とは、総合的な学習の時間において、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動」と示され、探究における児童の学習の姿を示したものである（図1）。しかし、総合的な学習の時間だけでなく、学びを自分ごととして捉え、その問題解決のために「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経て発展的に学んでいくことは、他教科でも大切にすべきことだと考えている。

本実践は、小学校第6学年の国語科において探究的な学習の過程を意識して、児童が学び方や学ぶペースを考えながら計画し、個別最適な学びの実現を目指して取り組んだ国語の導入2時間を紹介する。

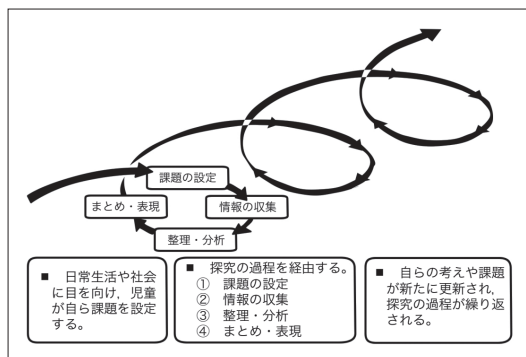


図1 探究的な学習における児童の学習の姿

## 単元のゴールを見据えた学習計画

単元の導入において、単元の終末に取り組む言語活動のゴールイメージをもたせている。この単元では「言葉の変化について自分の考えを書く」というゴールに向けて、必要な知識や手順を考えさせ、今後どのように学習を進めるか計画を立てさせた。計画を立てるときは、終末場面で書く文章の例文を示し、書かれている内容を分析したり、教科書を参考にしたりするよ

う指導した。また、ノートの代わりに Google スライドを使用して、学習計画や記録を蓄積し、見返せるようにしている。

## 学習内容と学び方を明示する課題の設定

課題を設定するときには、「何を学び、どのように学ぶか」といった学習内容と学び方について触れるよう指導している。学び方については、1人でじっくり考えることの大切さを伝え、困ったときに必要に応じて友だちと協働したり、友だちがまとめている Google Jamboard の画面を見て参考にしたりするなど自分に合った学び方を選択できるようにしている。

本実践の2時間目は、教科書の流れでいくと「近代の代表的な文学者の表現方法や時代背景などを調べることを通して、さまざまな言語表現を学ぶ」という時間である。教科書を参考に単元の学習計画を立てたことから、設定した課題はほとんどの児童が類似した内容となったが、学び方については「教科書を使って1人で調べる」や「インターネットを使って時代背景を友だちと分担して調べてから個人でまとめる」など、児童によって違いが見られた。

## 情報の収集と整理・分析の過程を往還する活動

課題の設定を行った後に、3人の文学者の時代背景や特徴的な表現方法について情報を収集したり、文章を比べて気づいたことを書いたりする活動を行った。記録は Google Jamboard やノートなど児童が自分でやりやすい方法を選択した（図2）。

3人の文学者を調べるために、1人でじっくり考えたり、友だちと分担したりと子どもによって「どう学ぶか」を選択して取り組んだ。ある児童は、教科書の読み取りが終わったあとに、インターネットで他の作品を調べ、多くの情報を集めてから整理をする。別の児童は、どのように整理すればよいかを悩み、他の子の

# 4

個別最適な学びと  
協働的な学びの実践を支える

## [ 教師への支援 ]

- ◎学校管理職による支援  
(保護者への説明・体験)
- ◎都道府県指導主事による支援  
(ビジョン=県/主体=学校)
- ◎市町村指導主事による支援  
(クラウドで「いつも・いつでも」)
- ◎市町村指導主事による支援  
(「学習観」を変える研修)
- ◎教務主任による支援  
(教務主任が担う3つの役割)
- ◎研究主任・研修主任による支援  
(全部クラウド!)
  
- ◎Q&A みなさんの疑問にお答えします

## 01

## 保護者への説明・体験



仲渡隆真 ● 教頭

教育現場は端末導入によって変わりつつあり、一斉授業等の従来からの形の学びを経験してきた保護者にとって、この変化を想像するのは難しい。そこで、保護者向けに端末を活用した新しい授業形態を体験してもらい理解を深めるための一歩としたい。

情報端末の導入によって、児童・生徒の学びの様相は、益々多様でフレキシブルなものに変わりつつある。具体的には、個別最適な学びが可能となり、自分のペースで学習を進めたり、情報へのアクセスが広がったり、世界中のデータに簡単に触れたりすることがよりできるようになってきた。しかし、それぞれの児童・生徒の保護者は、情報端末での学習の仕方や変わりつつある授業・学校生活を想像することは難しく、逆に不安を感じている保護者も少なからず存在する。そうした課題にも、学校公開（授業参観）・学校や学級通信等で折に触れて発信はしてきた学校も沢山あると思う。学校公開（授業参観）を例にとると、クラウドで児童・生徒が学んでいる以上、その中身や活動は外から見ている保護者にはほとんど伝わらない。保護者目線で言えば情報端末を使わない授業の方が見えたえがあり、何をしているのが参観者にも分かりやすい。そこで、情報端末を活用した授業を受けたことのない保護者に向けて「児童・生徒の学び方を体験してもらおうセミナー」を開催し、保護者と学校でめざす学びの姿を共有することをお勧めしたい。ここからは、本校で実際に取り組んだ例を元に紹介をしていく。セミ

ナー構成は、小学校だとそれぞれの発達段階があるので、1~3年生編と4~5年生編に分けて年間で2回開催した。中学校であれば各学年に1回ずつの3回でもよいし、入口と出口の1年と3年でもよいかもしれない。（回数ではなく、各学校の意図や目的に合わせた方が保護者にも伝わりやすい）。

## 社会の変化と紐づけて学校の変化を伝える

学校の授業が変化しつつあるその背景を丁寧に伝えることが大切である。そして「社会が求める人材の変化」や「高等教育や義務教育の動向」と関連付けて情報端末を活用した学びの必要性を、それぞれの児童・生徒の現状に合わせて話をしていくことが大切だ。まずは、各学校の児童・生徒がどれぐらい日常的に情報端末を活用した学習をしているのか、そして、その有



当日のセミナーの様子



効性を感じているかで伝える内容も変わってくると思う。

## 児童が実際に使っているアプリでクラウド体験をする

情報端末にログインするには ID とパスワードが必要になってきます。各学校で研修用の ID をいくつか取得しておく、繰り返し活用できるので取得できる環境であれば作成しておくことをお勧めする。こちらは教育委員会との相談だろう（本校では、40 アカウント作成し毎年パスワードを変更して活用している）。

クラウド体験の導入として毎回実施していることは、共同編集だ。スプレッドシートに書かれた項目についてそれぞれが自己紹介のような内容を入力していく。これを体験するとクラウドを使って共同編集する感覚を、ほとんどの保護者は掴むことができる。

導入後の活動で低学年の保護者に向けては授業での活用頻度が高い Google Jamboard を使って、しりとりや 1 枚の写真から気がついたことを集める情報収集を体験してもらった。そして、高学年の保護者に向けては授業での活用頻度が増えるスライドの作成・動画を視聴しながら Google Chat に情報を入力する活動を体験してもらった。こうした体験で使うアプリや活動は、児童・生徒が日常の授業で活用しているアプリ、そしてそれを使った日頃の授業と同じ活動を体験してもらうことで、保護者もイメージがしやすく理解への足がかりとなる。



参加者にも1人1台情報端末

## 実際の授業を参観する

全学年を 1 クラスずつ授業ツアーのイメージで教師が解説をしながら回っていく。こうすることで、発達段階に応じて児童・生徒が授業の中でどのように情報端末を活用していくのかを順番に見ることができる。また、先程のクラウド体験と目の前の児童・生徒の授業をつなげることで、自分たちが体験してきた授業との違いを感じることができる。参観授業は、できれば意図的に見せたい場面や活動が表出する時間帯を授業者と打合せ計画的に参観していくと伝えやすいと思う。

こうしたセミナーを、管理職が講師として実施することが難しい場合は、他校管理職や教育委員会の力を借りて実施する方法も考えていくとよいだろう。また、保護者はこれまで、クラウドでつながった情報端末を活用した授業を受けた経験がない。児童・生徒が日頃の授業で活用している情報端末やアプリを実際の授業と同じような形で体験し実際の授業をそうした視点で参観することで保護者のよりよい理解へとつながっていくと考える。

管理職の役割として、各担任が保護者に伝えきれない大きな学びの流れ（学校教育目標に照らし合わせた、これからの学びの方向性等）を丁寧に説明したい。そのためには、保護者が不安を感じる情報端末の安心・安全な活用を、具体的な授業や学校生活と結び付けて共有することが大切だと考えている。



授業ツアーの様子

- 監修者 堀田龍也 (東北大学大学院情報科学研究科・教授／東京学芸大学大学院教育学研究科・教授)
- 編著者 佐藤和紀 (信州大学教育学部・准教授)
- 泰山裕 (鳴門教育大学大学院・准教授)
- 大久保紀一朗 (京都教育大学教職キャリア高度化センター・講師)

●執筆者 (掲載順)

[1]

久川慶貴 (春日井市立藤山台小学校)

小川晋 (春日井市立高森中学校)

稲木健太郎 (壬生町教育委員会)

八木澤史子 (千葉大学教育学部・助教)

[2]

福井美有 (春日井市立出川小学校)

磯川祐地 (浜松市立相生小学校)

本田智弘 (春日井市立中部中学校)

西本壇 (春日井市立知多中学校)

大石美里 (吉田町立中央小学校)

小松良介 (伊那市立伊那小学校)

杉本啓馬 (春日井市立藤山台小学校)

中田樹 (吉田町立住吉小学校)

近江悠太 (静岡市立長田南小学校)

中澤美森 (静岡市立伝馬町小学校)

山川敬生 (春日井市立松原小学校)

杉田直隆 (吉田町立住吉小学校)

石原浩一 (春日井市立松原小学校)

浅井公太 (静岡市立南部小学校)

落合一臣 (鳴門教育大学大学院)

新川颯人 (沖縄市立高原小学校)

棚橋俊介 (静岡市立長田東小学校)

滝沢雄太郎 (長野市立篠ノ井西小学校)

土田陽介 (帝京大可児小学校)

伊藤真紀 (信濃町立信濃小中学校)

三井一希 (山梨大学教育学部・准教授)

[3]

辻 隆 (栗山町立栗山小学校)

若月陸央 (春日井市立藤山台小学校)

吉田康祐 (静岡市立番町小学校)

織田裕二 (信州大学教育学部  
附属松本小学校)

榎本康介 (吉田町立吉田中学校)

大島玄聖 (春日井市立高森台中学校)

矢澤拓真 (須坂市立東中学校)

[4]

仲渡隆真 (春日井市立出川小学校)

松坂真吾 (長野県教育委員会)

平井奉子 (吉田町教育委員会)

望月覚子 (春日井市教育委員会)

石原浩一 (春日井市立松原小学校)

三津山一世 (吉田町立自彊小学校)

水谷年孝 (春日井市教育委員会  
教育研究所)

(2024年3月1日現在)

Google Chat, Google Jamboard, Google スプレッドシート, Google スライド,  
Google ドキュメント, Google ドライブおよび YouTube は, Google LLC の商標です。

## GIGA スクールはじめて日記 4

# これのできる! 個別最適な学びと協働的な学び

2024年3月31日 初版発行

監修者 堀田龍也

編著者 佐藤和紀・泰山裕・大久保紀一朗

発行者 横山駿也

発行所 株式会社さくら社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 ワカヤギビル 5F

TEL: 03-6272-6715 / FAX: 03-6272-6716

https://www.sakura-sha.jp 郵便振替 00170-2-361913

ブックデザイン 佐藤 博

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

© 堀田龍也・佐藤和紀・泰山裕・大久保紀一朗 2024, Printed in Japan  
ISBN978-4-908983-74-0 C0037

\*本書の無断複写・複製・転載を禁じます。

\*乱丁・落丁本は、送料小社負担にてお取り換えいたします。